



新しい文化芸術施設 市民ワークショップ -管理運営基本計画を考える-

ワークショップ通信 vol.3

発行：岡山市
平成 29 年 10 月 25 日

10月14日(土)、岡山市会館4F大会議室にて、「第3回新しい文化芸術施設市民ワークショップ」が開催され、市民参加者14名、(女性9名、男性5名)、事務局スタッフ7名、合計21名が参加しました。

3班に分かれ、「市民参加を考えよう！」をテーマに、新しい文化芸術施設で、自分たちはどのようなことができるか、どのようなことをしたいかについて検討を行いました。

■ 第3回テーマ 「市民参加を考えよう！」

第3回ワークショップでは、「自分たちの文化芸術施設とするために、どのような関わり方ができるか」「市民と新しい文化芸術施設と一緒にできることは何か」を話し合いました。

岡山県内や全国のホールや劇場で、既に取り組みされている市民参加の事例などを参考に、「新しい文化芸術施設」における市民参加の方法を考えていきました。

■ 「市民参加」とはどのようなものがあるの？

岡山県内や全国のホールや劇場で既に取り組みされている市民参加の事例をご紹介します。色々なホールでの市民参加を参考に、「新しい文化芸術施設」での市民参加を考えていきました。

鑑賞者としての参加	<p>ホールが主催する公演の鑑賞</p> <p>ホールで作品を「鑑賞」することも重要な市民参加のひとつです。多くの方が鑑賞することがホールを経済的に循環させ、主催事業の充実や施設の有効活用へとつながります。鑑賞者を対象とした「友の会」などの組織を持ち、公演情報の案内や先行予約などの特典をつけることもあります。</p>
参加型事業への参加	<p>舞台作品への参加 ・ 体験型事業への参加</p> <p>ホールが制作する市民参加型事業に、出演者やスタッフとして参加します。市民参加型事業も様々なものがあり、プロのアーティストを中心に市民が部分的に参加するものから、市民だけで全てを創りあげていくものもあります。舞台作品だけでなく、講座やワークショップなどの体験型事業への参加も考えられます。</p>
運営への参加	<p>ボランティアとしての参加</p> <p>講習会などでホールのボランティアに必要な知識を身につけ、事業や運営に参加します。ボランティアといっても、無償に限られているわけではありません。有償でのボランティアやサービス券の提供、ポイントによって主催事業が鑑賞できるなど、特典をつけることも考えられます。</p>
事業企画・推進役としての参加	<p>企画制作や運営の実施 ・ 複数の市民組織との連携</p> <p>市民自らが文化芸術活動を創造・推進するため、ホールのニーズにあった事業を企画し、運営・実践していきます。企画の実施には専門的な知識が必要となるので、企画の実施とあわせ、事業の実施や舞台技術、ホール運営に関する勉強会や養成講座等の実施が望まれます。</p>
評価への参加	<p>アンケートやインタビュー ・ 運営評価委員会</p> <p>ホールの運営や事業に対して、市民の目線から評価を行います。アンケートやインタビューに答えるといった比較的簡易なものから、運営評価委員会などの組織にてホールの設置目的や理念に沿った運営が行われているかを総合的に検証・評価していくものまで、様々な関わり方があります。</p>

■ 各班でのグループワークの内容をご紹介します。

1班



「市民参加」の目的を考える

事業への参加から市民が推進役となって評価や事業企画を行うという、「浅い所から深い所まで」の参加のあり方を考えるアイデアが、たくさん出されていました。

『「市民参加」の目的は、市民参加を通じて新しい文化芸術施設を考えること、そうすることでより良いホールへとになっていく』という考えのもと、岡山で活動している劇団や長年続いている鑑賞会との連携など、既にある繋がりを活かした提案がありました。

2班



岡山の人材を育成・起用する

単発ではなく、数年にわたりしっかりと時間をかけ、出演者はもちろん、演出や音楽なども市民が担当し、将来的には全国へと発信する市民参加作品を創作する。関連して、ワークショップや評論を行っていくという提案が出されました。

また、坪田譲治文学賞戯曲部門の設立、障がいをもった子どもたちに向けた取り組み、エキストラでの出演、裏方塾の開催など、具体的な企画についても意見があげられました。

3班



多様な関わり方がホールの発展につながる

「新しい文化芸術施設には市民参加が絶対に必要！」という考えのもと、入り口を広くし多様な関わり方ができるボランティアや、「これならできる！」という市民を集め、関わり方を考えていくボランティアコーディネーターの養成など、仕組みづくりからの提案が出されました。また、今までなかった市民の関わりを推進したり、土壌を開発するためには、今から開館するまでの期間が非常に重要だという意見があげられました。

■ 新しい文化施設芸術設 今後の予定 平成34年度の開館にむけて

今年度は、「管理運営基本計画」の策定に向けて、6月から3回の市民ワークショップを開催しました。それぞれ「事業」「利用のルール」「市民参加」をテーマに話し合い、岡山市の「新しい文化芸術施設」のイメージや将来像が少し見えてきたのではないのでしょうか。

第3回の議論では、様々な意見が挙げられましたが、特に「利用者懇談会」や「運営協議会」、「評価委員会」など、「市民が積極的に新しい文化芸術施設に関わっていく！」というご意見が多数挙げられました。

次年度(平成30年度)は、今年度に引き続き、「管理運営実施計画」として、より詳細な管理・運営のあり方について検討を行います。今後も、市民の皆さまと共に考える機会を設けていきます。

「管理運営基本計画」については、今後、パブリックコメントやシンポジウムを開催する予定です。皆さまのご参加をお待ちしています。

【問合せ先】

〒700-8544 岡山市北区大供1丁目1番1号 岡山市市民生活局文化振興課(本庁舎7階)
TEL: 086-803-1054 FAX: 086-803-1763

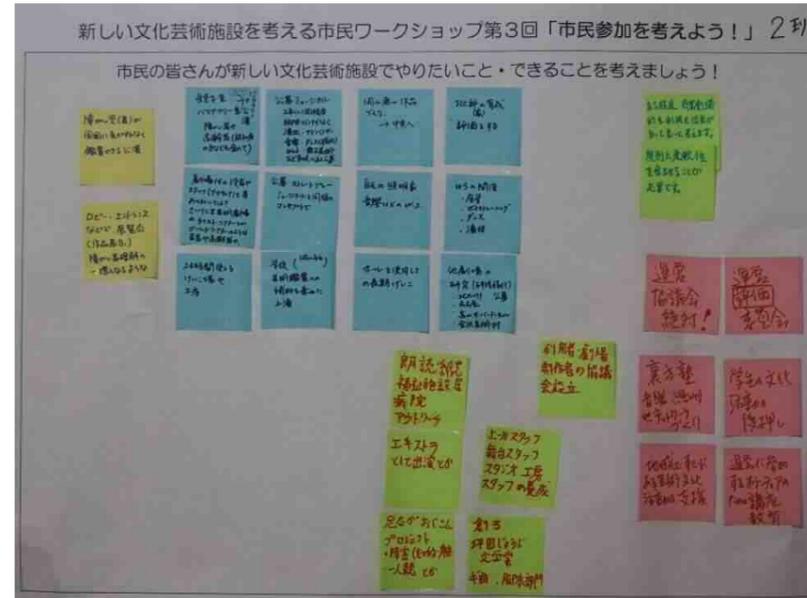


■ 1班



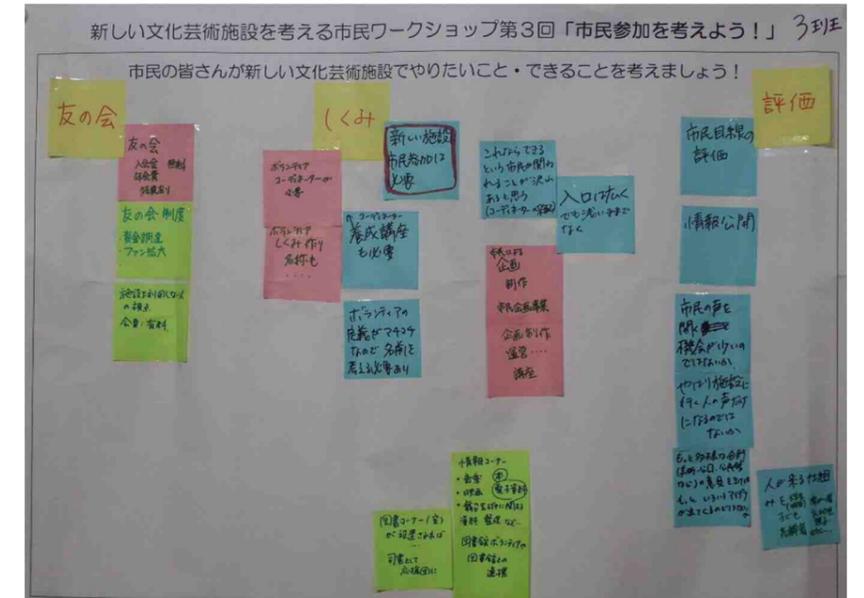
- 【運営への参加】
 - ・才能のある個人、団体に仕事を発注する。
 - ・搬入ボランティア、搬出ボランティアをすることで舞台芸術への親和性を高めていく！
 - ・市民運営委員会をつくる(市民目線で考える)
- 【参加型事業への参加】
 - ・ジャンル別コンテスト型応募
 - ・劇団員によるワークショップを行う。
- 【市民参加の目的】
 - ・市民参加の目的→いい観客をつくる。
 - ・劇場を知る!考える!
- 【鑑賞者としての参加】
 - ・鑑賞者を増やすための直前割引
- 【評価への参加】
 - ・利用者懇談会の実施
 - ・協議会、懇談会の実施
 - ・事業評価、運営評価、管理評価
- 【事業企画推進役としての参加】
 - ・稽古場の助成に、市民が公募で参加する。
 - ・会場利用の直前割引を検討
 - ・劇団ひびき、ドラネコ座と一緒に事業を創っていく。
 - ・岡山市HPでジャンルごとにコンペ形式で前年度に募集する。

■ 2班



- ・障がい児(者)が周囲に気がねなく鑑賞できる公演
- ・ロビー・エントランスなどで展覧会(作品展示)、障がい者理解の一環となるような
- ・親子室、バリアフリー室→(進化させて)→バリアフリー公演
 - 障がい者や高齢者(認知症の方なども含めて)
- ・劇場付の役者やスタッフ(アマチュア)を集めておいては? さいたま芸術劇場のネクストシアターとかゴールドシアターのような若者や高齢者の
- ・24時間使えるけいこ場や工房
- ・公募ミュージカル 2年に1回程度。脚本だけでなく、演出・アドバイザー・音楽・ダンス(振付)・web・舞台美術など多岐に渡る公募
- ・公募、ストレートプレー、ミュージカル同様のコンセプトで
- ・学校(岡山市内)芸術鑑賞への補助も兼ねた上演
- ・岡山発の作品づくり→中央へ
- ・地元の照明家、音響などのWS
- ・ホールを使用して長期げいこ
- ・批評(家)の育成・評価をする
- ・WSの開催 座学、ボイストレーニング、ダンス、演技
- ・他劇場の研究(研修)公募(北九州、名古屋、富山オーバードホール、金沢芸術村)
- ・ある程度、商業劇場的な利用も活気があって良いと考えます。規則に柔軟性を含ませることが必要です。
- ・朗読、紙芝居、福祉施設、病院、アウトリーチ
- ・エキストラとして出演とか
- ・足ながおじさんプロジェクト 障害(知的・身体)、一人親とか
- ・ホールスタッフ、舞台スタッフ、スタジオ工房、スタッフの養成
- ・創る、坪田譲治文学賞戯曲、脚本部門
- ・利用者・劇場制作者の協議会設立
- ・運営協議会絶対!
- ・裏方塾、音響、照明他ネットワークづくり
- ・地域ですすである芸術文化活動の支援
- ・運営評価委員会
- ・学生の文化活動の後押し
- ・運営に参加するボランティアのための講座教育

■ 3班



- 【友の会】
 - ・友の会:入会金無料、年会費、特典あり
 - ・友の会制度、資金調達、ファン拡大
 - ・施設を利用しない人の視点
 - ・会費:有料
- 【しくみ】
 - ・ボランティアコーディネーターが必要
 - ・ボランティアしくみ作り名称も
 - ・新しい施設に市民参加は必要
 - ・ボランティアコーディネーターの養成講座も必要
 - ・ボランティアの定義がマチマチなので名前を考える必要あり。
- 【評価】
 - ・市民目線の評価
 - ・情報公開
 - ・市民の声を聞く機会が少ないのではないかな。
 - ・やはり施設に行く人の声だけになるのではないかな。
 - ・もっと多様な分野(美術、公園、公民館など)の意見をきけばもっといろいろなアイデアが出てくるのではないかな。
 - ・人が来る仕組みを大学生(中学生)・子ども・高齢者・障がい者・乳幼児・親子 etc...
 - ・これならできると市民が関わることが沢山あると思う(コーディネーターの采配)。
 - ・人口は広く、でも浅いままではなく。
 - ・市民による企画・制作・市民企画事業・企画制作・運営...講座
 - ・情報コーナー(音楽、映画、本、電子資料、舞台芸術に関する資料整理など)
 - ・図書館ボランティアや図書館との連携
 - ・図書コーナー(室)が設置されれば...、司書として応援団に!